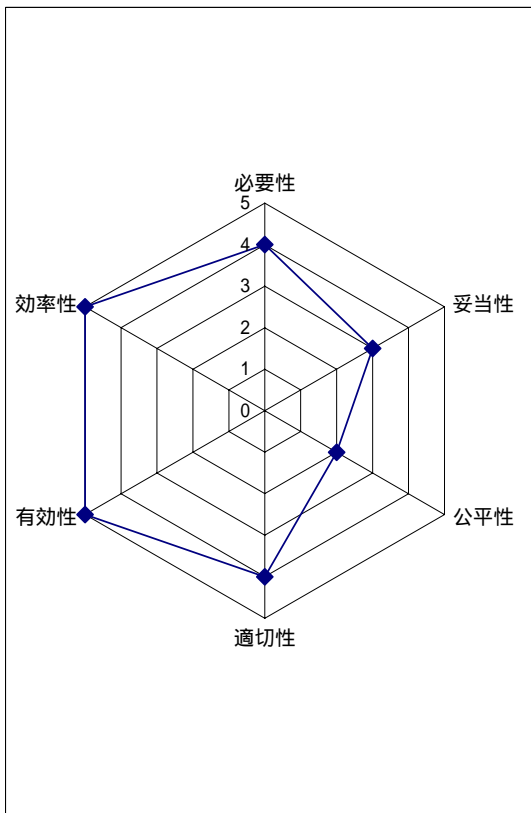


事務事業名	中心市街地活性化対策空店舗活用事業	担当部局	市長部局 産業経済部
基本目標	豊かな暮らしを育む活力ある産業づくり(産業)	担当課名	商工観光課
施策体系	豊かなふれあいとにぎわいのある商業・観光の振興	担当係名	商工係
施策	その他		

1. 事業内容

事業本来の目的と具体的内容	市内の商店街の活性化を図り、中心市街地活性化区域内の空店舗を活用して、コミュニティ施設の整備又は魅力ある専門店等の運営を行なう。 家賃補助		
事業の期間(開始/終了)	平成15年 5月/ 年 月		
根拠法令、条例、規則など	単年度補助金交付要項		
	結城市補助金等交付要項		
事業が対象としている人(モノ)	特定非営利活動法人 結城まちづくり研究会		
具体的な活動内容	中心市街地活性化対策空店舗活用事業補助金交付要項を制定する		
	中心市街地活性化対策空店舗活用事業補助金交付説明会を開催する		
	中心市街地活性化対策空店舗活用事業の確認検査を実施する		
	中心市街地活性化対策空店舗活用事業補助金を交付する		
事業の成果	中心市街地の空店舗の有効活用(当該店舗「ゆうき観光物産館」売上額)		
	中心市街地の来客数の増加(当該店舗「ゆうき観光物産館」来客数)		

2. 事業の評価



項目	説明
必要性	4 依然、必要性が高い H16から開始となった当該補助金を当初より活用してきた「ゆうき観光物産館」については運営も軌道に乗り、自立してきた感があるが、中心市街地全体としてはまだまだシャッター通りの印象は否めない。今後も他の活動意欲のある団体等に当該補助金を適用することにより、空店舗数減少による商店街活性化を図る必要があると考えられる。
	3 どちらとも言えない 現在の経済情勢等を勘案した場合、当面、行政によるてこ入れが必要であると考えられる。
公平性	2 広い範囲を対象としているが、活用は一部にとどまるなど、若干偏りがある 空店舗を活用する者に対する支援であり、中心市街地の活性化を図る上ではより多くの団体等に活用してほしいと考える。
	4 現在のやり方(手段)が一般的であり、特に問題はない 光熱水費等に関しては使用頻度により異なってくるため、現在の「家賃補助」が適切であると考えられる。
有効性	5 目標以上の達成度である 空店舗数の増加は食い止められており、補助対象団体の運営状態も上向きであることから、一定の効果は上がっていると考えられる。今後は他の空店舗に対する事業を継続することにより、更なる効果が上がると考えられる。
	5 効率は相当高められている(相当なコスト低減が図られている) 当該事業により空店舗解消・店舗(団体)収入増が図れていると考えられる。なお、補助事業としてもH17より実施している「家賃補助」が適切であると考えられる。

総合評価	当該事業は、ソフト事業であるため中心市街地の活性化という大事業の中では、消極案であると考えられる。しかしながら、最悪でも「空店舗の減少」による魅力アップに貢献できる点、上手く機能(販売目的店舗であれば)すれば「収入増」につながる事業である。中でも「家賃補助」は被害最小であると考え、現在の財政事情を考慮した場合、適した内容であると考えられる。
------	---

3. 今後の事業の方向性

所属長判断	事業の方向性判断	短期的方向	維持継続	中長期的方向	維持継続
	説明	空店舗対策として現在の「観光物産館」は市単独事業で補助しているが要項等で補助年限を設定する必要がある。新規の空店舗活用事業としてTMO結城とも調整を行いながら、実施については国・県・補助事業を活用することを考え市補助負担の軽減を図る。			
決定権者判断	決定内容	維持継続			
	説明	(株)TMO結城を中心に、商工会議所、商店会と連携をとり、民間主導の活用事業の展開を図っていく。			